

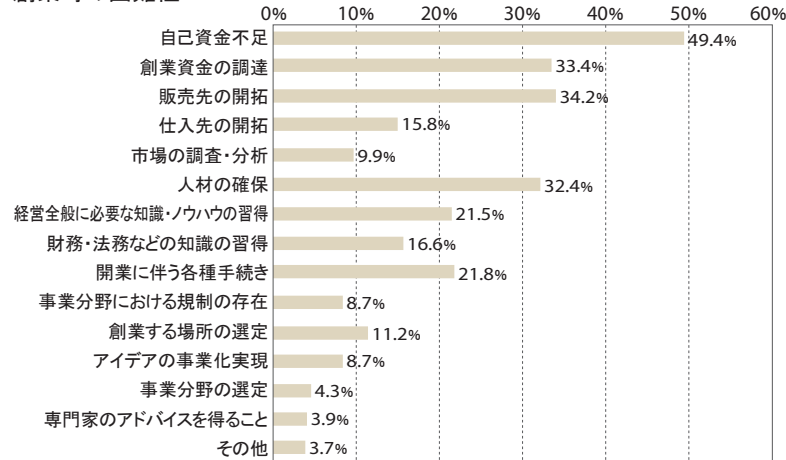


数字で見る ベンチャービジネス

ベンチャー企業の悩みとは？

49.4% 創業時に自己資金不足で悩んだ起業の割合

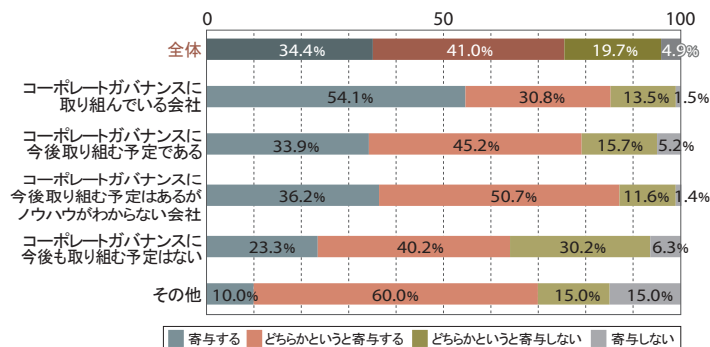
創業時の困難性



出所: 中小企業庁「創業の環境に関する実態調査」(2001年12月)のデータを加工
※企業へのアンケートを集計したもの。複数回答のため合計は100を超える。

54.1% コーポレートガバナンスにより資金調達が円滑になったとする企業の割合

コーポレートガバナンスによる資金調達の円滑化についての予想



出所: 中小企業総合事業団「中小企業におけるコーポレートガバナンス—成長企業にみる経営システムと情報開示」(2002年3月)のデータを加工

ベンチャー企業を運営していくうえで、どのようなことが最も大変か？ という話はかなり前から多くのレポートや研究で取り上げられてきました。上のグラフもそんな調査結果の一つです。みなさんのご想像通り、「自己資金不足」が最も多い回答です。

ベンチャー企業が資金不足に苦しむ理由は、財務上の安定性に問題があったり、業歴が短かったりするためですが、金融機関側から見てベンチャー企業に資金供給する際の大きな問題の一つが「よくわからない」ということです。「わからない」とは、付き合いが短いため業務内容がよくわからない、事業が始まったばかりなので業況の先行きがよくわからない、初めて見る会社なので財務内容がよくわからないなどです。金融機関にしてみれば、「わからない会社」について時間と人手(つまりコスト)をかけて調査するというのは大きな負担に感じられるものなのです。

コーポレートガバナンス(企業統治)とは、株主や金融機関などの投資家やそのほかの利害関係者のために、どのように企業を律していくか、という考え方です。コーポレートガバナンスには、きちんとした意思決定の仕組みや法令を遵守する体制、または、伝票を保管するといったことまで含まれます。そして、会社の情報を外部にきちんと公開するディスクロージャーは、その中でも最も大事な事項の一つです。

「資金調達にコーポレートガバナンスが寄与すると思うか」という企業アンケート調査の結果をまとめた上のグラフはなかなか印象的です。コーポレートガバナンスに積極的な企業ほど、資金調達が円滑になると思うと回答しています。きちんとした情報開示や管理体制の整備が資金調達を容易にするであろうことが想像できます。財務内容や売上げを上昇させるのは相手のあることですし、すぐには難しい場合が多いでしょうが「相手にわかってもらえるような会社にする」というのは自社でできることです。自社を知ってもらうために情報をきちんと外部に公開することを心がけてみてはいかがでしょうか？

1975年生まれのみずがめ座。某大手都市銀行に入学後、「大阪経済の動向に深く関心している中小企業の実態を知りたい」との思いを胸に大阪都市経済調査会へ。「数字のことなら何でもお任せ」の頼れる男だが、実はギャンブラー。好きな言葉は、「臨機応変、出たとこ勝負」。趣味は釣。